
○議長（春田 新一君） 暫時休憩します。再開を1時55分からとします。

午後1時39分休憩

午後1時55分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 皆さま、こんにちは。本日最後、一般質問の最後でございます。前回までの、改選前ですが、8人前後の方が大体一般質問の登壇に立たれておりましたが、今回12名。非常に活力のある若い方が対馬を熱弁されて感心して聞いておりました。その強い思いを今後4年間しっかり学習して、皆さんがよくなるようないい話をたくさんしてください。これは私の思いです。

それと、皆さん誰もが選挙があった後の挨拶、立派なものでございます。私も確かにそうだなと思います。私個人も含めて、全島の皆さまにお世話になったことをここでお礼申し上げまして、一般質問に入らせていただきます。

私は、今回、ちょっとおかしいなというふうなことを感じておりますのが、2年前に請願が出されました。放射性廃棄物の最終処分場に関する推進と反対の請願。その2年前ですが、7月、8月に激論がございまして、9月に最終的な委員長の報告と、それから、その後、市議会については推進を、いわゆる進めると、今後促進するというふうなことに結論が出まして10対8の票の内訳でございます。それで最終日に市長がこれを受け入れて進めることはできないという決断をなされて、これで終わったわけです、そのときは。それから月日が経って北海道の2地区、寿都町、神恵内村、それから最近になって九州佐賀県の玄海町、これを手が挙げたということで、月日が経つ割には何も新聞紙上に出てこないのではないかと、これは北海道のことです。確か北海道は、私ひも解いて、請願の審査の資料をずっと見てまいりましたら、文献調査の受入れを国が取り扱ったのが2020年の10月です。そうしましたら計算が合わんでしょう。文献調査は2年です。2年で20億のお金を交付しますと、最大です。それが今何年になりますか。全く令和6年度いっぱいとなれば、6年になっているでしょう、その月日。そうなりませんか。それで答えが出ておりません。これに私は非常にチェック、興味がございまして、今回このことをまず取り上げないかなと思って今回の一般質問に立ったわけでございます。

それでは、通告に従いまして市政一般質問を行います。

放射性廃棄物の最終処分場の行方について、このことを1番目に取り上げております。

特定放射性廃棄物の最終処分場誘致について、ちょっと間違っております。2022年と書いて

ておりますが、2020年が正解でございました。北海道寿都町、神恵内村が文献調査受入れを国に表明して、やがて——これ6年という数字になりますがちよっとはっきりその中身が分かりませんので経過した時間は6年になろうかと思います、また、九州佐賀県玄海町が本年度受入れを表明した、この3件の対象地区の具体的実態は、または進捗状況等を何か把握しておるならば、お尋ねいたします。

もしそうでなければ、結構でございます。私のチェックしたことと市長の考え方を問うてみる方向で一問一答をやってみたいと思います。

それと、2番目にカーボンニュートラル2050の最先端地域の実現について。

本年2月17日、対政会政務調査により、東京都港区元麻布、KUNIUIMI—EHL株式会社取締役山崎養世事務所を訪ねた。これまで2回ほど一般質問で、今後の対応をどうするのか市長に伺ったが、いまだに結論を出していないようだ。どのように思われているのか、再度尋ねてみたいと思います。

政務調査の報告ですが、このことについては、2023年8月3日、策定された島と海と長崎と、これをテーマに観光・教育・農林水産・再生エネルギーから成長戦略集「我が対馬」については、水素中心のカーボンニュートラルと記載されるところであります。その後の計画、具体的進展は見られず、一般質問で市長に数回尋ねたところであるが、全く対応しないということではないという市長の答弁。

しかし、時間だけが経過する状況にあり、本年度末、政務調査により実態について意見交換という形で、直接、山崎氏との対談に至った。当日は急遽、国の事業関係の対応で時間の制限となり僅か1時間程度であった。

初めに、近年の対馬の実態について尋ねられ、人口最大6万人弱の時期もあったが、現在2万7,000人を割るような激減状態であるというふうなこと、そして主力とされた水産業が30年前には約300億円を超えた時期もあったが、現在120億円に落ち込んでいると説明。途中、水素事業について質問等を行ったが、山崎代表は、「私は過去2回、比田勝市長に島の建て直しを前提とした具体的プロジェクト事業、コンサル事業を勧めたがいまだに回答がない。このことがない限り前に進むことはない。市長に回答をいただきたいと進言してください。」このような厳しい言葉で分かりましたが、このようなことを言うておりました。「対馬は日本の神社の発祥の地。対馬藩だけで朝鮮貿易を行ったこと、浅茅湾は世界一の場所である。現在、佐世保市に総合計画を策定したが、これをぜひ市長に確認してほしい。」、このようなメッセージがありましたが、非常に厳しい空間を味わったことでありました。

それでは、1番目の放射性廃棄物の最終処分場の行方について、市長の意見をいただきたいと思うんですが、特にこれをどうのこうの言うことはございませんが、あっておる事実を私は皆様

に知っていただき、そのことについて市長の考え方だけを問いますので、ひとつ、そういうことでよろしくをお願いします。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 大浦議員の質問にお答えいたします。

初めに、令和2年、2020年10月に北海道寿都町、神恵内村が、また、令和6年5月に佐賀県玄海町が文献調査を受け入れ、当該自治体のその後の具体的な実態や進捗状況に関する質問でございます。

北海道寿都町、神恵内村、そして佐賀県玄海町の3つの自治体における具体的な実態や進捗状況につきましては、市として個別に詳細を把握しておりません。

市といたしましては、国が実施しております特定放射性廃棄物の最終処分に関する全国的な動向について、経済産業省資源エネルギー庁が実施しております高レベル放射性廃棄物の最終処分に係る自治体向けの説明会に職員がウェブ会議形式で参加し、情報収集に努めております。この会議を通じて全国的な動向、既に文献調査を受け入れておられます3つの自治体の動向を把握するにとどまっております。

文献調査に対する本市の判断につきましては、令和5年9月定例会の閉会時において、議員の皆様、市民の皆様に御報告申し上げたとおりでございます。

今後、国内外の社会情勢や文献調査を受け入れておられます3つの自治体の動向の変化、あるいは新たに文献調査を受け入れようとする自治体が現れることがありましても、私の考えに何ら変わりはありません。

次に、一般社団法人島と海と陸を豊かにする会のプロジェクトについてでございますが、昨年9月、一昨年12月定例会の際も同様の質問がございましたので、その際の答弁と重複する部分もあろうかと思いますが、御了承いただければと思います。

まず、島と海と陸を豊かにする会でございますが、対馬市内外のエネルギー関連の団体や研究者など約60人の参加により同会が設立されていること、また、同会が人口減少や農林水産業の衰退、海岸漂着ごみ問題といった本市を取り巻く様々な課題解決を図る対馬プロジェクトの一環として、集落の用水路などを利用した中小水力発電設備、亜臨界水を用いたごみ処理施設の整備、大規模洋上風力の段階的整備等を掲げていることについては、新聞報道等で承知しているところでございます。

また、一昨年11月、東京大学をはじめとする関係者の皆様が来庁され、取組概要の総括的な説明を受けたところでございますが、その際、再生可能エネルギーの水素化といった詳細部分までの説明は受けておりませんでした。

なお、太陽光や風力・水力・バイオマスといった再生可能エネルギーから得られる電力を利用して水を電気分解し製造されるものをグリーン水素と呼び、再生可能エネルギーを利用するため、CO₂の排出が抑えられるというメリットがあることは承知しております。その一方、再生可能エネルギーの普及が先立って必要なため、水素化までには再生可能エネルギーの供給体制の整備に時間がかかることや、水素エネルギーの輸送や供給に係るコストも必要となってまいります。

島と海と陸を豊かする会が掲げる構想内容に係る市の考え及び意見でございますが、本市におきましても市内温泉施設へ木質バイオマスボイラーを導入するとともに、本年度から市公用車における段階的な電気自動車の導入も計画しており、脱炭素化を推進していく方針であります。

これまで具体的な提案や連携等の要請を受けておりませんので、お話があった場合には、グリーン水素に係る供給体制をはじめ、製造手法や施設運用面、輸送面等の総合的なコスト面など取組の詳細等を検討し、当法人の計画と本市の事業が共通する取組であれば、お会いすることに異存はございません。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） まず、あまり時間をかけずに進めたいと思いますが、文献調査が北海道2地区進んでおって、我々が審査した請願中に文書が意見書として回答の形で2つの地区からあっております。それをこの資料の中に見るようにされておりますが、そこまで気づかんやっただけですけども、この寿都町長が出された意見書、対馬市、初村久蔵宛に出された意見書には偽りが書いておるといふような文書が参考資料として私は手元に持っております。多分、そのときの19名の議員全員にその資料があると思います。これは参考資料として議会事務局がつけ加えて送ったものとして私は解しております。この中身はこういうことであります。

2023年8月13日付で片岡町長が対馬市議会に提出した意見書に抗議します。この方々の組織は「子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会」といふようなことで、男性か女性か知りませんが、そういう文書をA4の用紙に4ページびっしり書かれております。その中でこれは本当のことやろうかという疑い、驚くべきことを記載されておりました。その内容はちょうど抗議文の中の2ページ目の5と書いて、意見書の内容の欄に、「当時各テレビ局のインタビューに対し町長の答弁として90億円をゲットして最後まで行くつもりはない」。もう一回言います。

「90億円をゲットし、最後まで行くつもりはない。交付金をもらって何が悪い。」というふうなことを紙面に載っております。そういうことを言ったということでございます。これは簡単に言いますと文献調査2か年、20億円、概要調査、これはボーリングを地下にずっと実施する予定箇所に1,000メートルのボーリングを打っていくんです。それが4年間です。70億円がそれに最大交付されるというふうなことになるって、電源立地地域対策交付金という名称の下でこ

のお金がもらわれますと、その後です、「最後まで行うつもりはない」。要は概要調査で終わらせて後のことについては拒否をするような感じです、この内容から言えば。金だけ頂いてあとはしないというふうなことをインタビューで語ったというふうなことを書いておられます。それは言った言わんちゅうふうなことで問題がありましようから、これを書かれた方はさっき言いますような町民の会ですから、それはそれで突っ込みませんが、そのことを言ったということと、もう一つ。北海道には泊原発が存在しております。この北海道に行動する市民科学者の会・北海道、博士の会、要は地質学やらそういうふうな火山のいわゆる火山帯に建物を建てたらどうなるというふうなことの専門的な学者の集団を形成しておりまして、その事務局長が北海道大学名誉教授小野有五と書いてありますが、この方が組織を操っております。そんな感じに書かれております。その根拠はそこが出した資料から私は今から申し上げます。

「当組織が分析している結論は、寿都も神恵内も事業予定場所は活断層の上にあつて地層処分に全く適しない場所です。海外では地層処分の適地となることは絶対あり得ません。」こういうことが記載されております。

この2点について、私もおかしいどころじゃなくてひどいことがあっているなど見るわけですが、市長の意見をちょっと聞いてみたいと思います。これは他人の、よそのことやからとやかく言いにくいでしょうが、しかしこんなことがまかり通っちゃう。2年ですよね、文献調査の調査期間は。今、何年になりますか。2020年の10月ぐらいからです、スタートが。書いています、例の請願の審査の資料の中に。これは経済産業省の資料の中に入っています、スタートしたの。今のことについて、市長、何かありましたら。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私が他の自治体のことをいろいろと言うことは控えますけども、ただニュース等で聞きましたのが、神恵内村のほうでしたか、元、過去の火山の火口であったというようなことがニュースで聞きました。そういうことでちょっと今調査しているエリアが若干絞られるのではないかというようなニュースでありましたので、今現在、私が聞いているのはそのような程度でございます。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） もっと大きい反応があるかと思えば、そのことにいろいろ言わないというふうなことでしょうが、ただはっきり言っているのは、概要調査で終わりますということをインタビューで言っていますね。そのことも言いませんか、何も。私は言うていいと思うんです、自治体ですからお互い。言えることと言えないことがあります、これは言えることでしょう。概要調査で終わります、こういうことです、先には進みませんと、こう言っています。これはおかしいでしょう。お金だけもろうて実際の地層処分はしめんと、こういうことですね。

いいですか、これ以上の答弁は。私は反応は幾らかなくちゃいかんと思うんですけども。（「先ほど答弁したとおりです」と呼ぶ者あり）そうですか。もう少し言ってもいいんじゃないかと思いますが、それで、このさっき言います行動する市民科学者の会・北海道、これ私は泊原発ができてその後のいろいろな原子力政策について北海道の道民組織の中で専門の皆さんがない限り、素人の集まりでは指摘がしにくいというふうなことで組んだ組織だと思います。そうせんと踏み込んだような発言を物すごくしています、この書き方。しかし、それは根拠に基づく1つの発言ですから、私はそういうふうなことは当然なくちゃいかん、このように思いますが、市長、そういうふうな、NUMOと例えば経済産業省がつくった方向性について、旗をいいか悪いかどうかというふうなことがあって当たり前じゃないですか、そんなことを思いませんか。私はその辺を聞きたいです。

○議長（春田 新一君） ちょっと大浦孝司君に申し上げます。対馬市に対しての質問をしてもらって、やはり市長もほかの町のことを答える材料がありませんので、対馬市はこういうことだというようなことに絞って質問をしてもらいたいと思います。

15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） だから、北海道にきちんとしたチェック機関があるが、例えば九州、長崎県、対馬市、今、候補地の請願と大きな動きがありましたが、この中でそういうチェックする機関があってもいいんじゃないかということをどう思うかと言っただけですから、それはそれでいいんじゃないでしょうか。議長、それはそういうことを言っただけです。

○議長（春田 新一君） 把握していなければそれでよろしいということでもいいですか。

○議員（15番 大浦 孝司君） それは市長が黙っておられるからどうかと聞いただけ。

○議長（春田 新一君） 市長、何かありますか。

○議員（15番 大浦 孝司君） いや、いえじゃなくて、もう何も思わないということなんですか、今の私の問いに。思わないなら思わないというふうなことではっきり言ってください。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） いろいろこのことにつきましては報道等やネット等で出てはおりますけれども、このことについては私も読んでおりますけれども、先ほど申し上げましたように、要はそれぞれの自治体が進めていることでありますので、他の第三者の首長でありましても、このことについていろいろと申し上げることは控えたいというふうに思います。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 参考までに申し上げますが、この行動する市民科学者の会・北海道が申されておるのは、2町村の候補地が適当でない場所に申請し、あり得ないことだというふうなことを具体的に述べております。それに対して、前に進まないというふうなことについて

は、こういうふうなことも書いております。現在の地層処分、300メートル地下に、いわゆる廃棄物の集積を4万個以上やる。このことを、地下を工事した場合、必ず地下水が中に入って出て満杯になるんだろうということを書かれております。だから、そういう場所に事をして大ごとになることをしたくないというのが本音だろうと思うんです。途中までの調査はさせるがそのあとは、そういう意見が書かれております、はっきり。それはいいとです、それで、参考ですから。どこから出たというのははっきり科学者の会が出しているわけですから。私はその辺を日本中の皆様が現状の地層処分について不安であり、前に進みたくないというのが現状の答えであると思います。その辺には何かコメントはありませんか。地下水が入るという話は以前からあっているんです。そういう話は聞いたことないですか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私もそのような詳細なことまでは聞いてはおりません。ただし、私も全国漁港漁場協会の副会長をしております、もう一人の副会長が神恵内村の村長でございますので、村長さんとはたまにお会いしたときに、様子はどうかという話はたまに聞いておりますけれども、今進めておりますぐらいの話で踏み込んだ話までは至っておりません。

それとここにちょっとネットの部分がありますけれども、一方の寿都町の片岡町長さんのほうは自分の判断で応募したが、町民の皆さんに嫌な思いをさせたということで、本当におわび申し上げたいといったようなことを言ってあるというような、こういう記事だけは私も読んでおります。

以上です。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） そして、佐賀県の問題。佐賀県は具体的に言いますと鉱物資源の上にその申請をやっておると、この鉱物とは石炭です。恐らくこのことが前に進むことは、分かりませんが、適当な場所ではないというふうなことはその対象の一つ。経済産業省とNUMOが掲げておるのは火山帯が入っている近くの場所、そして活断層のある付近、最終的にはさっき言いますように鉱物資源がある場所、この3つが事業の対象外というふうなことで、聞こえておりますか、その3か所にこの手を挙げておる3地区は、造られない場所に手を挙げておるというふうなことを書かれております。そういうことをどういうふうに捉えておりますか分かりませんが。そこは見解はどう思っていますか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私自身、1つだけがちょっと腑に落ちんというのか、これは佐賀県の玄海町のほうは、今、議員もおっしゃられましたように下に鉱物資源があるということで確か灰色の区域だったと思っております。この灰色の区域にそのような文献調査が入るということは、

これどうなのかなという思いは私自身持っておりました。

以上です。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） それでは、私、読んだ中で手を挙げた3地区はほとんど文献調査から進むことは難しいと思われます。そうしますと、北海道2地区は文献調査の答えが出とらんそうです、専門的な機関にチェックしたら。ということは問題があつて前に進むか進まんかのことがかなり難航しているということでしょう。もう5年経過するでしょう。2020年の10月から始まって6年です。6年目になるんですか。答えを出しとらんそうです。参議院選挙が終わってその答えを出すそうです。どういう意味か知りませんが、そういうことでございます。

そうしましたところ、対馬市の場合、逆に戻って比田勝市長が相入れない、受け入れられない、進められないというふうなことが、あなた様の任期の残りの期間の時間がそういうふうなことになるかと思いますが、その点を何かあつたらお話してください。何もありませんか。何もない。それでいいですか。いやいや、笑いごとじゃないです。議長、私が言うのは、適当ではないような場所が手を挙げて、国も100億に近い金を簡単に出されないということを今足踏みがあつておると理解します。絶対そういうふうなするような場所じゃないということを書いているんだから、北海道の科学の集まりの方々が。そんなことは最初から分かつておつてやっとするぞというふうなことを簡単に言いよるんです。最終的には元に戻りますというふうになりますから、例えば、対馬市が、要は市長が止めたことは事実やが、市長が任期期間中であつてその後はまた元に戻る、こういうふうなことをさっきの笑いで止まりますか。私はもうちょっと気合いの入った話でもするならともかく、笑っていますよね。あなたがおらねば元に戻るんです。その辺の言葉はございませんか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私も先ほどの答弁で申し上げましたように、私がこの残りの3期目の任期の間は受け入れる考えはないというように申し上げました。

この後につきましては、これがどうなってくるのかということは、今の私の現状では、ちょっとまだ予測はつきかねます。ただ、今後、国のほうも経済産業省のほうもこれがヨーロッパ等の一部で実施されてありますように、国そのものが決定をするということになれば、またいろんなことが考えられるかもしれませんけども、今の日本国の中では首長もしくは知事の判断を参考にするというようなことが記載されておりますので、そのことについては、またぶり返すようなことはないものと私は思っております。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 時間が取り過ぎたから、残りのほうのもう一つの部分をちょっ

と確認します。

先ほど市長の答弁では、山崎養世事務所に尋ねたことの中身について少し触れましたけども、市長に対して直接回答をいただきたいというふうなことを進言してくれという意味は私は直接会うべきであって、そういう機会は今までなかったでしょう。市長、午前中に渡した資料を持っておられますか。ありますか。その中のめくって3ページ目になると思います。左側にセミナーレセプションの要約とか左にありますね、左側の1枚目めくって。その下に経済産業省の井上部長という方が挨拶されております。分かりますか。その右側のページに移って、よろしいですか、分かりますか。この一部に経済産業省が語っているんですが、日本は水素発電でもリードしており云々と書かれておりますが、水素発電の要は準備にかかっているということです。だから規模を大型、小型、それぞれの対応ができるように2030年くらいまでには云々と書いておりますよね。2050年には止めるわけですから、形は。火力発電止めないかんことになるわけですから。だから、そういうふうなことを書いています。

私はこのことが、発電所を造る原動力が火力、これがもうなくなるわけですから、全て。それで風力とか言うけども、それも難しいことをお互いに分かっておりますが、この水素というのは自動車を動かす燃料として考えておりますよね。発電所の仕組みはタービンを回すだけです、基本的には。タービンというのは回転ですから。それで導線コイルをどう巻いているか分からんけども、最終的にはそこで回転で発電を起こすわけですから、そう難しい話ではないが、私はそちらの方向に対馬の方向性もいくんじゃないかというふうなことはこの理屈から言うたくなります。

そういう話やら水素の、要は対馬に入れた場合のどういうふうな1つの仕事が動くかいろいろ話してみませんか。私は3回で、もうこのことをそれ以上言えばあなたに失礼だと思いますが、ただ前に大変大きな背中を押しています。これはもう少しぶつかっていいんじゃないですか、1対1で。どうでしょうか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私のほうから議員のほうに質問するのは失礼かと思いますが、要は山崎さんのほうと私も2回ほどお会いしておりまして、山崎さんのほうから提案と申しますか、こういうシステムというようなことで渡された気がございます。私だけでなく副市長やら担当部長のほうも山崎さんは市のほうに何をさせたいのか、コンサル事業を受けたいのか全く見えないとみんなそう言うんです。私自身もこの水素についてはぜひ進めたいという思いは強く思っております。そういうことでこの6月の初旬に、今、経済産業省の副大臣であります古賀友一郎先生にも来ていただきまして、この水素の講演をしていただいたところでございます。そういうことでございまして、そこら辺がどこまで市のほうに提案をされるのか、そこが私たちは全く読めんとです、実際。そういうことで、これはどうすべきかなということで今悩んでいるところで

ございます。

山崎さんのほうはこういうことを対馬でしたいと考えているというようなことがあれば教えていただければと思います。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 私は2月の17日に行ったときにそのことをやりかけた、そうしたら逆鱗に触れて、話すのはあんたじゃなくて市長だということを言わんばかりやった、だから、1対1もよかろうが副市長、一緒に行ってきませんか。大事な話のようにあるんです。ただ流れが読めんのはあるでしょうけども。必要なのは背景に大きな組織を持っています、水素を造る発電の世界を造っている博士がカナダにおるわけ。そこと組んでいますから。これはすごいんです。そういうふうなことを私はチャンスと思うんだけど、あれから2年、一向に同じ回答です。もう3遍目でもう止めないかんかなと、話は、比田勝市長に。違う手で何とか考えないかんかなと思います、一市民として思います。1回ぶち当たってみませんか、1人で。時間ですからこれで止めますけども、そう思います。大きな品が前にあります。

以上で一般質問終わります。

○議長（春田 新一君） これで、大浦孝司君の質問は終わりました。

○議長（春田 新一君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後2時46分散会